

週報

国際ロータリー第 2660 地区

令和 2 年 10 月 6 日



豊中ロータリークラブ

第 2898 回例会
第 2481 号

広めよう ロータリーの心 地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

2020~21 年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク
(ロータリーは機会の扉を開く)

Rotary



2020.7~2021.6

会 長 岩本洋子
副 会 長 小川佳伸
幹 事 宮田幹二
雑誌・広報・会報委員長
吉川秀樹

本日 (10 月 6 日) のプログラム 次回 (10 月 13 日) のプログラム

「米山月間に因んで」

卓話担当：矢野 昭
米山奨学生：楊 馳



— ガバナー補佐訪問 —
国際ロータリー第 2660 地区
I M 第 1 組 ガバナー補佐
辻川 功一 様 (大阪中央 RC)

— 本日の卓話 —
「医療事故から学ぶ危機管理」
卓話担当：吉川秀樹

～ クラブ協議会 ～

★会長の時間★

「10月、米山月間に思う」

2020-21 年度 会長 岩本洋子

弁護士は営業行為、営利行為をしてはならないと弁護士法に書いてあるので、株式会社の取締役にはなれません。どうしても取締役になろうとする弁護士は弁護士会の許可をもらう必要があります。面倒くさい許可申請手続をしてまで、取締役になろうとする弁護士は少ないです。

一方、監査役は営業行為ではないので、弁護士会の許可は必要ないので、弁護士はたいてい株式会社の監査役になることが多いです。

私は、平成 17 年から平成 20 年まで、キシリトール飴を作っている会社の監査役をしていたのですが、この飴会社は、小さいながらの大証 2 部上場の会社だったので、ある日、突然、イギリスのお菓子会社に株式を M&A で買収されて、外資に飲み込まれてしまいました。

飴屋が外資になるとどうなったかといいますと、社長は新会社からやって来て、日本人なのですが、英語ペラペラで外資らしく取締役会を英語でやるとか言い出して、日本語もたどたどしい工場長は「そんな出来ません、私、辞めます。」とか言って辞職してしまいました。

会社が外資になるともうアメリカとかイギリスに占拠された敗戦国日本みたいな感じになって、有能な社員はみんな辞めてしまいました。小ぶりの会社が迂闊に上場すると世界の大本営にあつという間に飲み込まれて、これは働く人にとってはかなり不吉なことでした。

米山奨学生や豊中ロータリー奨学生をみていて思うのです。この人達ぐらい英語も日本語も中国語もできたら、外資の買収も M&A もこわくないだろうな、日本人もこうならないといけないなと思っています。

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内

TEL 06-6858-1551 FAX 06-6857-0011

例 会 日 時：毎週火曜日 12 時 30 分より

事 務 局：10 時～16 時(土日祝を除く)

H P ア ド レ ス：www.sun-inet.or.jp/~jtrc2660/

メー ル ア ド レ ス：jtrc2660@sun-inet.or.jp

例会出席報告☆

	第2897回	第2894回
例会日	9月29日	8月25日
① 会員数 A	38	38
(内出席免除者)	7	7
② 出席義務者数	31	31
③ 出席義務者出席数	24	23
④ 出席免除者出席数	6	3
⑤ メイクアップ数		2
⑥ 出席義務者欠席数	7	8
出席率 %	81.08%	82.35%

出席率 (2897回) = ③+④/②+④ 出席率 (2894回) = ③+④+⑤/②+④

幹事報告

- ・国際ロータリー第2660地区より
「2020年10月 地域社会の経済発展月間 | リソースのご案内」が届きました。
「ガバナー月信10月号」が届きました。
「2020年10月のロータリーレートは1ドル=105円です」
「ロータリーの友10月号推奨記事と関連記事のご紹介」が届きました。
「地区大会のご案内」が届きました。

掲示板

- ・第4回定例理事会
日時:10月6日(火) 本日例会終了後
場所:ホテルアイボリー 例会場前
- ・地区公共イメージ向上セミナー
日時:10月10日(土) 14:00~16:30
場所:大阪YMCA会館
- ・ガバナー補佐訪問
日時:10月13日(火) 例会時
場所:ホテルアイボリー 例会場
- ・ガバナー補佐訪問後 クラブ協議会
日時:10月13日(火) 13:30~14:30
場所:ホテルアイボリー3F 例会場隣の会議室
- ・国際奉仕・社会奉仕合同委員長会議
日時:10月17日(土) 10:00~12:00
場所:大阪YMCA会館
- ・ガバナー公式訪問時 懇談会
日時:10月27日(火) 11:20~12:20
場所:ホテルアイボリー 例会場隣の会議室
- ・ガバナー公式訪問
日時:10月27日(火) 例会時
場所:ホテルアイボリー 例会場
- ・職場見学と秋の家族会
日時:11月19日(木)
集合 13:45 出発 14:00
集合:ホテルアイボリー
訪問先:佐川美術館

10月のお祝い

- ・入会記念日
木村会員 S.63.10.4
小川会員 H.25.10.2
- ・ご夫人誕生日
村司会員夫人 弘美様 10.20
- ・ご結婚記念日
中井会員 S.35.10.24
田中会員 S.35.10.18
森本会員 H.13.10.8
松山会員 S.43.10.13
都井会員 S.57.10.17
宮田会員 S.53.10.8
原会員 H.8.10.26
- ・会員誕生日
福盛会員 S.23.10.29
北村会員 S.12.10.13
今川会員 S.37.10.17
岩本会員 10.18



9月29日のゲストとビジター

- ・大阪大学大学院 理学研究科 教授
梶原 康宏 様
- ・豊中RC奨学生 Mamahit 君
- ・豊中RC奨学生 Li Jiyao さん

9月29日のニコニコ箱報告

- ・誕生日祝いを頂いて 南原会員
- ・親睦ゴルフコンペに多数のご参加ありがとうございました。 横田会員
- ・親睦ゴルフで優勝しました。 田畑会員
- ・親睦ゴルフで二位でした。 佐川会員
- ・親睦ゴルフで三位でした。 松本悟会員
- ・親睦ゴルフで栄えある賞をいただきました。 木村会員
- ・今川会員にお世話になりました。 森本会員

副幹事・副SAA当番

- 10月副幹事 奈須 正典 会員
- 10月副SAA 松本 悟 会員

10月受付当番

- チーフ: 米田 眞会員
- 10月6日 志水清紀会員、松本 悟会員
- 10月13日 松本拓朗会員、平野和枝会員

「放射化学という学問—現状と課題—」

卓話担当：篠原 厚



今回の卓話は、皆様に放射線、放射能についての社会認識についてご意見を伺うのが主な目的です。最近ニュースによく流れている関連する話題は、福島原発事故に伴う食品中の放射能の件は少しずつ静かになり、今は大量に発生している汚染水でしょう。また、それに関して懸念されている風評被害というのが、社会的にも問題ですが、実はわたくしの専門分野の「放射化学」という分野にもいろいろな側面で少なからず影響が及びます。

本日の卓話では、我々の研究分野が、設立の初期から放射能に関連する社会的問題に大きく係わってきていることをご理解いただくために、簡単に歴史を紹介します。我が国の放射化学研究はベクレルの放射能の発見（1896年）から間もなくのことで、1920年代には大学にいくつかの研究室ができ、飯盛里安、木村健次郎、仁科芳雄らの著名な先生方が活躍されています。ただ、戦後原子力に関する研究は1950年まで禁止されていました。放射化学を主とする研究室が大学に多く設置されだしたのは、1954年の第5福竜丸事件をきっかけとします。この時、放射化学者が非常に活躍し、その必要性が認識されたものと思います。しかしながら、1986年のチェルノブイリ事故、1999年のJCO臨界事故、2011年の福島原発事故でも、関連分野の研究者は献身的に活動しました（現在もしています）が、その重要性が認識される一方で、関連分野の人材不足が明らかになったにもかかわらず、原子力や放射能の分野にとっては逆風が続いています。その根本は、やはり放射線や放射能に関する社会認識にあるのではないかと思います。医療分野や多くの工業分野でも非常に重要かつ有益なもので、その恩恵を多くの人が享受しているにもかかわらず、

現在の放射化学分野やその関連分野では、ニホニウムで代表される新元素生成やその化学、ミュオンなどの新しい量子プローブによる物質科学や宇宙科学、福島問題も含めた環境放射能研究、そして医学応用に至る非常に広範囲かつ最先端の研究が進められています。これらのいくつかについては、これまで卓話でご紹介させていただきましたが、抜けていたのが社会とのかかわりの部分です。本稿では、特に最近話題の福島の汚染水について、卓話中にも多くのご意見ご質問を頂きましたが、当日のトークでは少し手を抜いてしまった基礎背景や量的な関係も含め、以下に少し詳しく紹介し、皆様にいろいろ考えて頂くきっかけにしたいと思います。

福島事故に伴う原子炉からの汚染水は、原子炉建屋への地下水や雨水の流入を抑制しても、現在、150m³/日の割合で発生する見通しで、2020年6月末時点で約122万m³がタンクに貯蔵されています。この調子ですと敷地いっぱいタンクを増設しても2022年夏頃にはタンクが満杯になると言われています。そこで、汚染水の処分の方法が以前から問われており、現在、海洋放出が有力視されていますが、風評被害への対応や情報不足により、反対の意見が多く社会的に容認されるかどうか疑問視されています。

汚染水に含まれる多くの放射性物質は多核種除去システム（ALPS）等で除去され、貯蔵されている汚染水に含まれるのは、ほぼトリチウム（³HもしくはT、半減期12.3年）のみで、2019年10月での総量は856兆Bqとのことです。莫大な量に見えますが、トリチウムは通常ではトリチウム水（HTO）の形で存在し、純粋なHTOのみの量を計算すると、約16グラムに相当します。これを放出限度濃度以下にまで薄めるので、おそらく（10倍程度）1400万m³ぐらいの水で薄め時間をかけて放出することになります。一方で、現在でも原子炉からはトリチウムは放出されており、日本の原子炉全部で、1年間で約380兆Bqが放出されていると言われています。汚染水を何年間で放出するかによりますが、10~20年程度とすると、毎年1~2割程度環境（日本近海）への負荷が増える程度と考えられます。

もう少しグローバルな視点で見ると、トリチウムは天然にも存在し（宇宙線と大気原子との核反応で、約7京Bq/年の生成率で常時作られている）、地球上にある総量は100京Bqと推定されています。これに対し、過去の大気圏内核実験でその約200倍が放出されたと考えられており、また、世界中の原子力発電所からは、毎年、天然の生成量の1/5に当たる量（少し古いデータですが、1.4京Bq/年）が放出されています。また、トリチウムは壊変の際に非常にエネルギーの低いベータ線を出しますが、水0.1mm程度で止まるため、外部からの被曝は考える必要は無く、体内被曝のみを考えることとなりますが、その放射線影響は非常に小さいと考えられます。実際、これらのトリチウムはほとんどHTOの形で存在し、通常の水（軽水H₂O）と化学的性質はほとんど同じで分離は困難なため当然飲料水にも含まれていますので、体内にもありますが、これまで放射線影響は報告されていません。

以上のような事実を考えると、汚染水の海洋放出は、科学的には特に大きな問題を引き起こすとは考えられません。ただ、これを地元の関係者、国民、社会がどう受け止めるかが問題だと思います。皆さんはどうお考えでしょうか？さらにこの件も、結局は、放射能に対する社会認識の問題に帰するように思っていますが、それをどうすればいいかなども含め、是非ともご意見を頂ければと思います。